

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	14-309	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
A smartphone application to support recovery from alcoholism: a randomized clinical trial. アルコール症から回復を支援するためのスマートフォンのアプリケーション: 無作為臨床試験。		
執筆者		
Gustafson DH, McTavish FM, Chih MY, Atwood AK, Johnson RA, Boyle MG, Levy MS, Driscoll H, Chisholm SM, Dillenburg L, Isham A, Shah D.		
掲載誌		
JAMA Psychiatry. 2014 May;71(5):566-72. doi: 10.1001/jamapsychiatry.2013.4642.		
キーワード		PMID
スマートフォン、アプリケーション、インターネット		24671165
要旨		
<p>重要性: 研究は継続治療がより良好な結果に関係していることを示唆しているが、アルコール使用障害のための収容施設療法から離れる患者は根拠に基づく継続治療を典型的に提供されていない。スマートフォンのアプリケーションは、有効な継続治療を提供することができる可能生がある。</p> <p>目的: 回復を支持するためのスマートフォンのアプリケーションでアルコール使用障害のために収容施設療法を離れる患者が対照患者に比べて危険な飲みかた日をより少なく過ごすかどうか検討すること。</p> <p>設計、設定と参加者: マスクしていない無作為臨床試験を 3 つの収容施設療法プログラムで行う。一つは米国中西部の 1 つの非営利的な治療組織によって運営されている施設、そして、残りの二つは米国北東部の 1 つの非営利団体によって運営されている 2 つの収容施設プログラムである。</p> <p>収容施設での療法に入った DSM-IV アルコール依存症の基準を満たした総計 349 例の患者は、通常通り治療 (n = 179) または、通常通り治療 + スマートフォンによる Addiction-Comprehensive Health Enhancement Support System (A-CHESS) (アルコール使用障害の継続ケアを改善するように設計されたアプリケーション) 治療 (n = 170) にランダム化された。</p> <p>介入治療: 治療は、プログラム全体で通常通り変化した; いずれも、退院後に患者に調整継続治療は提供しなかった。A-CHESS は、モニタリング、情報、連絡とサポート・サービスを患者 (患者とカウンセラーが接触している状態を保つ方法を含む) に提供する。それぞれ、介入期間と追跡調査期間は 8 ヶ月と 4 ヶ月であった。</p> <p>主要なアウトカムと測定項目: 危険な飲みかたの日 (2 時間に患者の飲酒が男性で 4 ドリンク、女性で 3 ドリンクを上回った日) の日数。1 標準ドリンクは 14g の純アルコール (12oz の普通のビール、5oz のワインまたは 1.5oz の蒸留酒) を含むアルコール飲料と定義した。</p> <p>患者は、収容療法から退院後に 4、8 と 12 ヶ月かかられる調査でその直前の 30 日間に危険な飲酒をした日数を報告するよう依頼された。</p> <p>結果: 介入中の 4 ヶ月間と追跡調査の 8 ヶ月間、A-CHESS 群の患者は、平均 1.39 対 2.75 日で、対照群の患者に比べて有意に少ない危険な飲酒日を報告した (平均差、1.37; 95%CI、0.46-2.27; P=.003)。</p> <p>結論と関連:</p> <p>本研究の結果は、スマートフォンのアプリケーションがアルコール使用障害のケアの継続において患者に有意に有益である可能性があることを示唆する。</p>		